
世界の終わりに花束を

梅田 優

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の終わりに花束を

【Nコード】

N8038X

【作者名】

梅田 優

【あらすじ】

加速する世界に、素敵な終わりと始まりを。
怠惰な生活を送る高校生・日野陽也。いつも通り惰眠を貪っていたはずが、目が覚めた場所は棺桶の中。

「勇者を殺してよ」

魔王の息子の死。それを皮切りに沸き立つ二つの感情。行き詰まった彼の行動は、世界に何をもたらすのか……。

息苦しさ

兄が行方不明になって約三ヶ月。俺の不登校生活も、一ヶ月を過ぎるとすっかり板に付いたように思える。

「あんだ、そろそろ何かしたら？」

姉が玄関でヒールを履きながら言った。相変わらずスタイルの良い美人だ。表情のないモデルと言っても過言ではない。それにも拘わらずめでたい話の一つや二つも上がらないのは、その取っ付きにくい無表情のせいか、はたまた一人暮らしの借家に居座る弟のせいか。

「料理はやってるだろ。姉貴には大分劣るけど」

寄生虫よろしく姉に迷惑を掛けていることに対して罪悪感はある。けれど、だからといって学校に行くでもバイトを始めるでもなく今もソファアに寝そべっている俺なので、それは口先だけの罪悪感なのかもしれない。

「違うわよ。趣味でも見つけたらって話。それにね、あんだと私は違うのよ。一々比べてどうなるって言うの」

「俺の価値が分かるんじゃない？ 人間ってのは、他人と比べることで初めて自分の価値が分かるって言うし」

「そう。その雑学でも究めたら？ 好きよ、あんだの散らかった知識。どこにも重心がなくて、まるで陽也だわ」

「ははっ、意味分かんねえ」

率直な、恐らくは誉め言葉。それに対して同じように返すことも出来ず、適当に返答をする。姉は鞆を肩に掛け直し、ただ一言「じやあね」と残して家を出た。扉が閉まる音、それに続く音はない。

姉は家族の中で最も冷めている。そしてその冷たさが、俺には一番心地良い。過干渉なんて誰にもされたくない。

「……つまんねえなあ」

本屋にでも行こうか。自分に何かしらの才能が眠っているなんて思っていないし、一縷の希望も抱いてはいないが、姉の言葉を蔑ろにするのは気が引ける。参考書でも買えば、きっと自己満足に浸れるだろう。

そう考えながらも、淡い暗闇の四方八方から襲ってくる睡魔に抗うことなく俺はソファーに身を沈めた。目が覚めるのは十時頃だろうから、それから補導されない程度に注意して行くか、と。

(ああ、本当に)

面倒だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8038x/>

世界の終わりに花束を

2011年11月15日23時52分発行